

防災学習指導案

日 時：平成16年5月14日 3校時

児 童：第6学年 14名

指導者：中嶋 清人

1. 題材名 有珠山副読本 『火の山の響』より

16. 春がまたやってきた

2. 題材について

このカードは、有珠山噴火からの植生の回復を理解するためのものである。

1663年から2000年までで9回の噴火をくり返してきた有珠山だが、噴火のたびに荒れ果てた大地も、長い年月をかけ植生が回復してくる。そこには自然の偉大さ、自然の力強さがある。

荒れ果てた大地も一粒の種から、小さな芽を膨らませ、大きな森を作り上げていくことを知ることにより、自然の持つ大きな力に子どもたちの目を向けさせたい

3. 題材の目標

◎噴火から、年月をかけ植生が回復してきていることを理解することができる

4. 児童の実態

2000年噴火のとき、14名中13名が避難を経験している。避難先は親戚宅、避難所、虻田近辺、札幌市内とさまざまである。

噴火の直接的な被害を被った児童は、家屋全壊（桜ヶ丘団地）2名。一部破損1名。

噴火があり、有珠山を嫌いと言う子もいるが、自らの体験や家屋破損の様子を素直に語ることができることから、災害での心の動揺は少なくなっている。しかし、自分を知ろうアンケートの中で噴火に関わる質問で、動揺が見られる解答をしている子もいるので、全てが癒されているわけではない。

昨年度から副読本を使った防災教育を実施している。グラーベン、スリットダムなど「エッ」と思うような言葉を知っているが、総合的にとらえていくためには学習不足の面もある。

5. 本時の展開

教師のはたらきかけ	児童の活動・予想される反応	留意点
○源太穴（明治の火口）の現在の写真を見せる これは何の写真でしょう	・ 木 森 林	ここでは見たとおり以上の答えをもとめない

ここは昔どんなところだったでしょう ○第4火口の現在の写真を見せる ここは昔どんなところだったでしょう ○明治の噴火の写真を見せる ○長い年月をかけて植生が回復していることを知らせる ○荒れた土地に植物が根付くきっかけを考える たねがどのようににはこまれてきたのだろう ○雨に運ばれてきたミズナラの種の写真と芽が出てきている写真を見せ、森を作るのは、小さな種からはじまっていることを知らせる ○副読本 カード16配布 ○種以外にも、もともとあった木から植生が回復していくこともあることを伝える ○2000年噴火の荒れ果てた土地もいずれ植生が回復していくであろうということを知らせる	・昔から森だった ・火口 ・火口 ・風がはこんできた ・鳥が運んできた ・動物が運んできた ・雨が運んできた ○副読本を読み、壊れかけた森も時間をかけ回復していくことをしる	荒地も時間とともに植生が回復してくることをおさえる できるだけ子どもの考えを引き出せるようにする 源太穴の写真、第4火口の写真をつりかえり、植生回復の第1歩が小さな種からはじまったことを知らせ、自然の偉大さを伝えられるようにしたい 壊れたと思われた森も回復していく様子を伝え、自然の力強さを伝えたい
---	---	---